「向き合う」

エピソード

毎日電車に乗って通勤している雪夫さんはこんな場面にでくわしました。

満員の乗客をのせた電車が終着駅に到着し、みんながおりはじめた時のこと。一人の少年が、制服を着た２人連れの中学生に向かって大きな声をあげました。

満員の車内で肩がぶつかったので怒っているようです。制服のむなぐらをつかみ、電車の車体に相手の体をうちつけました。中学生は何の抵抗もせずたたかれているばかりで、雪夫さんはどうしようかとためらいましたが、思いきって興奮している少年に声をかけました。

雪　夫：「もうそれくらいにしとけよ。」

少　年：「なに！おまえには関係ないだろ。」

まわりには電車をおりた人があつまっています。中年の女性がうつむきながら、少年の袖をつかんで引きとめています。

雪　夫：「あなた、お母さんですか？自分の息子さんをしっかりとめたらどうですか。」

少　年：「こいつは関係ないんだよ！」

その女性は、何も言わずにあたまをさげるばかりです。

駅　員：「どうしたんですか。何かありましたか…。」

駅員の姿を見たとたん、少年はさっと人ごみの中に消えてしまいました。少年の横にいた女性もその後を追うようにして姿を消してしまいました。

雪夫さんのひとりごと…

●駅員が来てくれたからおさまったけど、
あれでよかったのかな。
注意して反抗されたら、
それ以上関わらないでおこうと思っていたけど…。
自分がたたかれていた中学生の父親だったら、
それとも暴力を振るっていた少年の父親だったら、
どうしていたのかなぁ。

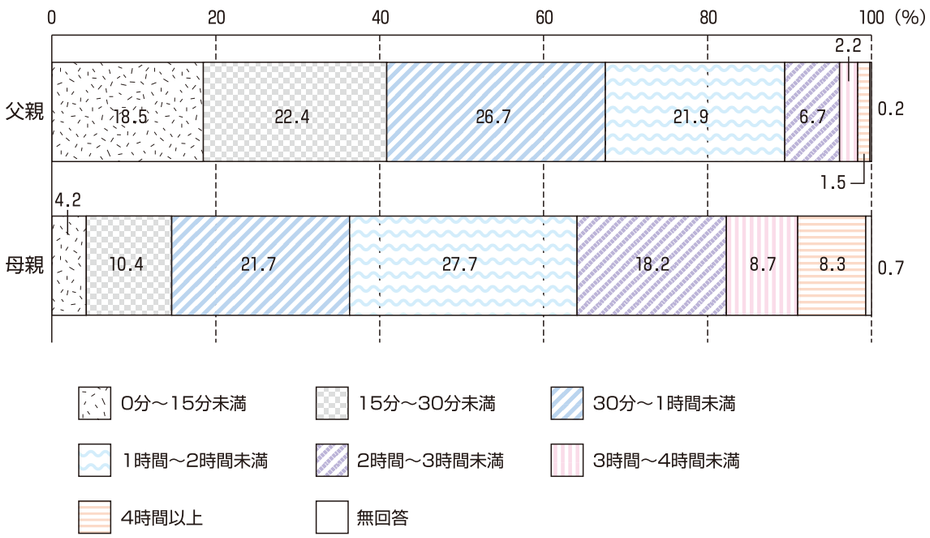
ワークシート(例)

伸　子：「どんな親だって、自分の子どもから逃げるなんてしないと思うわ。子どもに向きあっていても、どうしようもない反発を子どもにされることもあるんじゃないかしら。」

雪　夫：

参考資料

親子の接触時間（対象：中学3年生の保護者）



資料：内閣府「親と子の生活意識に関する調査」（平成23年度）

「「親」をまなぶ・「親」をつたえる」 大阪府教育委員会事務局市町村教育室地域教育振興課　平成27年3月発行
〒540-0008　大阪市中央区大手前3丁目2-12　電話 06-6944-6901　http://www.pref.osaka.lg.jp/chikikyoiku/information/
このリーフレットは24000部（24種類 各1000部）作成し、一部あたりの単価は23円です。

話しあいのポイント

●このエピソードを読んで、どんなところが気になりましたか？

●登場人物の行動についてどう思いますか？

エピソード・発展編

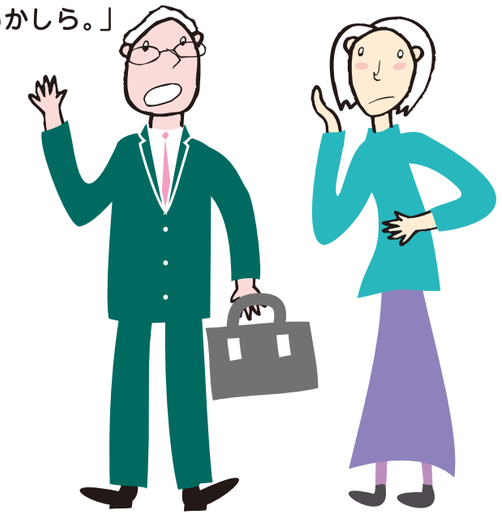
その夜帰宅した雪夫さんは妻の伸子さんにその日のできごとを話しました。

雪　夫：「あんなふうに自分の子どもが荒れたら、どう受け止めてやればいいのかなあ。」

伸　子：「そのお母さんの気持ちも分かる気がするわ。きっと子どもを何とかしようって、がんばった時もあったと思うの。でもどうしようもなくて･･･。耐えるだけでやってきたんじゃないかしら。とにかく逃げないで、そばにいることで、親としての責任をせいいっぱい果たしていたんじゃないのかな。」

雪　夫：「親ならもっと何とかしないといけないんじゃない？やっぱり子どもから逃げてるんだと思うよ。」

伸　子：「どんな親だって、自分の子どもから逃げるなんてしないと思うわ。子どもに向きあっていても、どうしようもない反発を子どもにされることもあるんじゃないかしら。」



グループワーク

1 この会話に続く雪夫さんのセリフを考えてみましょう。
（ワークシートに書き込んでみましょう）

2 自分の子どもがエピソードのような行動をしたら、あなたはどうしますか？
グループに分かれ、シートに記入したセリフをもとに話しあってみましょう。